学校だよりＮＯ３４　　令和５年　１月１３日　　児童数　４８７人

薫っ子Ⅱ

文責　校長　古川　次男

これが、薫の底力

始業式にすばらしい先輩の話をしたところ、６年生が、下記のようなお礼の手紙を作成してくれました。不在ではありましたが、その日のうちに矢吹様の会社にお届けにあがり、翌日電話でお話をさせていただいたところ、大いに感心されており、「感激した。」とのお言葉をいただきました。なにせ、このようなお礼の手紙を約７０通（当日出席した６年生全員）もいただいたのですから、それも当然のことなのかなと感じました。

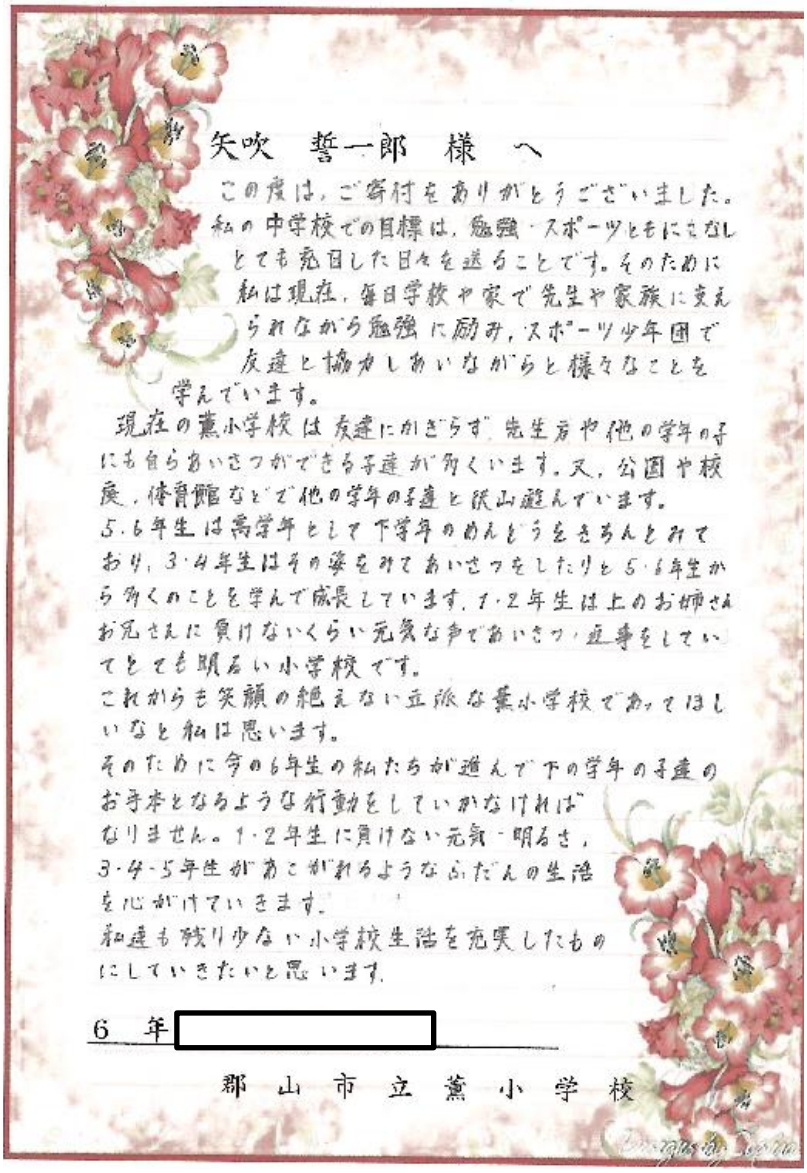
実はこの手紙は、始業式の講話後、たったの１時間で書き上げたものです。普段、字を書くことが少なくなっている（この学校だよりでさえパソコンで作成しています）私などは、大いに感心しています。

６学年では、「条件に合わせて文章を書く」ことを課題としていました。それを克服するため、朝のかがやきタイムでは、新聞を読んで第１段落に要旨をまとめ、第２段落に自分の感想を書くという活動を続けてきたり、国語科の学習では、事例・理由や論の展開に着目して要旨をとらえたり、事例と意見の関係を押さえて読み、自分の考えを明確にして伝えあったりすることを積み重ねてきました。その結果が、「薫の底力」として目に見える形となってきたのではないでしょうか。

今年の６年生は、４月に実施した全国学力学習状況調査の国語科では、全国比＋１０．２ポイントという高い学力を示しておりました。それにおごることなく、課題を上述のように明確にして地道な実践を積んできたからこそ、わずか１時間で、このようなすばらしい礼状を書くことができたのかなと思っています。

何事も「～は、１日にしてならず。」だと思います。日々の少しずつの努力の積み重ねが大切であるということを６年生の今回の実践から学ばせていただきました。

すばらしい先輩である矢吹様を目ざしてさらに努力を続ける６年生。その姿をお手本として、下級生も薫の伝統を引き継いで行ってくれることを期待したいと思います。



矢吹　誓一郎　様　へ

この度は、ご寄付をありがとうございました。
私の中学校での目標は、勉強・スポーツともにたくさんとても充実した日々を送ることです。そのために私は現在、毎日学校や家で先生や家族に支えられながら勉強に励み、スポーツ少年団で友達と協力しあいながらと様々なことを学んでいます。
現在の薫小学校は友達にかぎらず、先生方や他の学年の子にも自らあいさつができる子達が多くいます。又、公園や校庭、体育館などで他の学年の子達と仲よく遊んでいます。
5・6年生は高学年として下学年のめんどうをきちんとみており、3・4年生はその姿をみてあいさつをしたりと5・6年生から多くのことを学んで成長しています。1・2年生は上のお姉さんお兄さんに負けないくらい元気な声であいさつ・挨拶をしていてとても明るい小学校です。
これからも笑顔の絶えない立派な薫小学校であってほしいなと私は思います。
そのために今の6年生の私たちが進んで下の学年の子達のお手本となるような行動をしていかなければなりません。1・2年生に負けない元気・明るさ、3・4・5年生があこがれるようなふだんの生活を心がけていきます。
私達も残り少ない小学校生活を充実したものにしていきたいと思います。

6　年

郡山市立薫小学校